

はじめに

かつて、我が国には、多くの人々がたどる「標準的な」ライフコースがあった—学校を卒業した後、正規雇用で就職し、20代で結婚し、子供を持つ。住居については、親元を離れて、まずは借家に住み、その後持ち家と、ライフステージに応じて住み替えをする—。

しかし、現代の人々の暮らしは、ライフコースのそれぞれの段階で多様化しており、以前の人々の暮らしとは大きく異なるものとなっている。進学率が高まる中で失業率や非正規雇用割合は上昇しており、経済的な不安から、結婚、出産・子育てに踏み出せず、単身や夫婦のみで暮らす人々が増えている。また、郊外に一戸建てを構えるのではなく、利便性の高いまちの中心部にマンションを購入したり、民間賃貸住宅で暮らしたりする者も増えている。

我々の暮らす世界自体も、この数十年の間に大きく変容している。交通網の発達は、以前よりも短時間・低コストで人やモノを移動させることを可能にした。また、情報通信技術の進展は、外出せずに買い物をすることや、行ったことのない国について調べること、遠く離れたところにいる家族や友人と連絡を取り合うこと等、様々なことを可能にし、我々が従来持っていた「距離感」や「時間感覚」を変えようとしている。これらの環境変化もまた、人々の暮らしを多様なものにしている。

このように人々の暮らしが変化する中、進学・就職・結婚等のライフコースの節目を迎え、今後、社会の中核を担っていく存在である「若者」の暮らしは、今後の我が国の形を大きく左右するものと言える。若者が新たな暮らし方を模索し始めた今、国土交通行政は、その変化を踏まえて、現在及びこれからの時代を生きていく人々が豊かな暮らしを送れるよう、彼らの暮らしを支えていく必要がある。

平成24年度国土交通白書第Ⅰ部では、「若者の暮らしと国土交通行政」をテーマとし、第1章では、現在の若者を取り巻く社会経済状況の変化やその中で見られる若者の意識の変化について概観する。第2章では、現在の若者の暮らし方に具体的にどのような変化が見られるかについて、「働き方」、「住まい方」、「動き方」といった観点から分野ごとに分析を行い、人々が今後、生き生きとした暮らしを送るためにどのようなことが求められているのかを明らかにする。第3章においては、「働き方」、「住まい方」、「動き方」のそれぞれの分野において国土交通行政が今後目指すべき方向性や実施していく施策について記述する。

また、第Ⅱ部においては、国土交通行政の各分野における動向を、政策課題ごとに報告する。

<参考：年表>

西暦	元号	2012年現在の各世代の過去の年齢						
		70歳	60歳	50歳	40歳	30歳	20歳	10歳
1942年	昭和17年	0						
1943年	昭和18年	1						
1944年	昭和19年	2						
1945年	昭和20年	3						
1946年	昭和21年	4						
1947年	昭和22年	5						
1948年	昭和23年	6						
1949年	昭和24年	7						
1950年	昭和25年	8						
1951年	昭和26年	9						
1952年	昭和27年	10	0					
1953年	昭和28年	11	1					
1954年	昭和29年	12	2					
1955年	昭和30年	13	3					
1956年	昭和31年	14	4					
1957年	昭和32年	15	5					
1958年	昭和33年	16	6					
1959年	昭和34年	17	7					
1960年	昭和35年	18	8					
1961年	昭和36年	19	9					
1962年	昭和37年	20	10	0				
1963年	昭和38年	21	11	1				
1964年	昭和39年	22	12	2				
1965年	昭和40年	23	13	3				
1966年	昭和41年	24	14	4				
1967年	昭和42年	25	15	5				
1968年	昭和43年	26	16	6				
1969年	昭和44年	27	17	7				
1970年	昭和45年	28	18	8				
1971年	昭和46年	29	19	9				
1972年	昭和47年	30	20	10	0			
1973年	昭和48年	31	21	11	1			
1974年	昭和49年	32	22	12	2			
1975年	昭和50年	33	23	13	3			
1976年	昭和51年	34	24	14	4			
1977年	昭和52年	35	25	15	5			
1978年	昭和53年	36	26	16	6			
1979年	昭和54年	37	27	17	7			
1980年	昭和55年	38	28	18	8			
1981年	昭和56年	39	29	19	9			
1982年	昭和57年	40	30	20	10	0		
1983年	昭和58年	41	31	21	11	1		
1984年	昭和59年	42	32	22	12	2		
1985年	昭和60年	43	33	23	13	3		
1986年	昭和61年	44	34	24	14	4		
1987年	昭和62年	45	35	25	15	5		
1988年	昭和63年	46	36	26	16	6		
1989年	平成元年	47	37	27	17	7		
1990年	平成2年	48	38	28	18	8		
1991年	平成3年	49	39	29	19	9		
1992年	平成4年	50	40	30	20	10	0	
1993年	平成5年	51	41	31	21	11	1	
1994年	平成6年	52	42	32	22	12	2	
1995年	平成7年	53	43	33	23	13	3	
1996年	平成8年	54	44	34	24	14	4	
1997年	平成9年	55	45	35	25	15	5	
1998年	平成10年	56	46	36	26	16	6	
1999年	平成11年	57	47	37	27	17	7	
2000年	平成12年	58	48	38	28	18	8	
2001年	平成13年	59	49	39	29	19	9	
2002年	平成14年	60	50	40	30	20	10	0
2003年	平成15年	61	51	41	31	21	11	1
2004年	平成16年	62	52	42	32	22	12	2
2005年	平成17年	63	53	43	33	23	13	3
2006年	平成18年	64	54	44	34	24	14	4
2007年	平成19年	65	55	45	35	25	15	5
2008年	平成20年	66	56	46	36	26	16	6
2009年	平成21年	67	57	47	37	27	17	7
2010年	平成22年	68	58	48	38	28	18	8
2011年	平成23年	69	59	49	39	29	19	9
2012年	平成24年	70	60	50	40	30	20	10

2012年時点の60代：
1943年～1952年生まれ

第1次ベビーブーム
(1947～1949年生まれ：
2012年時点で63～65歳)

2012年時点の50代：
1953年～1962年生まれ

2012年時点の40代：
1963年～1972年生まれ

第2次ベビーブーム
(1971～1974年生まれ：
2012年時点で38～41歳)

2012年時点の30代：
1973年～1982年生まれ

2012年時点の20代：
1983年～1992年生まれ

2012年時点の10代：
1993年～2002年生まれ